

川中島の戦い特別公開 今月の逸品
流浪の信濃守護 - 小笠原長時の采配
6月9日(土)~7月8日(日)

博物館では、川中島の戦いの特別企画に合わせて、川中島の戦いに関わりの深い資料を今月の逸品として、月ごとに特別公開を行います。資料が語る川中島の戦いともいふべき、本物の展示、ご期待下さい。初回は流浪の信濃守護、小笠原長時の采配を展示します。

小笠原長時 (おがさわらながとき)

永正11年(1514) - 天正11年2月15日(1583)

小笠原長棟の長男で、幼名豊松丸。筑摩郡の林館に生まれる。筑摩、安曇両郡を領し、府中(松本)の井川、深志、林城などを持った。天文14年(1545)甲斐武田氏の伊那侵攻に際し、妹婿の藤沢頼親(福与城主・箕輪町)を救援したが失敗。同17年7月に塩尻峠の戦いでも武田に敗北し、同19年7月に本拠地林城も攻略され没落。高梨政頼、そして上杉謙信を頼った。その後武田氏が信濃を領有した30余年間、弟信定と嫡子貞慶(さだよし)を伴って伊勢や京都に放浪し、室町幕府の三好長慶を頼り、上洛。永禄2年(1559)に足利義輝に出仕。元亀2年(1571)には再び上杉謙信を頼り、500貫文を与えられた。謙信没後は会津の芦名氏を頼り、現地で弓馬の師範をつとめた。子の貞慶は深志城を回復するが、長時は天正11年(1583)、帰城寸前に家臣の坂西禅左衛門に謀殺された。70歳。

小笠原長時の采配

小笠原家は伝来の家芸である弓馬と礼法の当主として各地で尊敬と保護を受けた。この采配は小笠原長時、貞慶、秀政、忠脩、長次、長勝、長胤の七代にわたり同家に伝えられたものである。小笠原家の家臣・鹿島軍右衛門正純は、自身の祖先が長時公より四代にわたって小笠原家に仕え、軍旗の職をおさめたとして、貞享4年(1687)に拝領した旨が采配の柄に記されている。

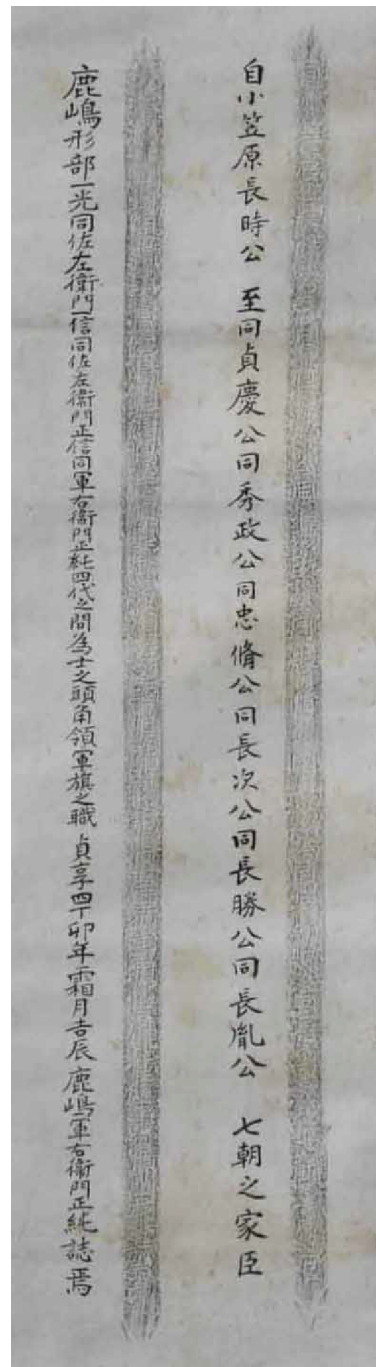
采配は、古くは放鷹(ほうよう)にあたって鷹の指揮に用いる切裂き紙をたばねた竿を「ざい」といい、また犬追物の合図にも神供(しんく)の幣(ぬさ)を用いて「再拝」といったことに由来する。その後16世紀以来、軍陣にも使用し、遠近の部下に指令を示す指揮用具となった。また、軍神を勧請(かんじょう)して主将の料(りょう)とされ、軍功によって手兵を授けられた部将にも使用が許可された。

采配の紙は白紙を本儀とするが、軍学の流行につれて金の切割(きりわり)、朱の切割などが生じた。



小笠原長時の采配
(武田神社蔵)

次回は現存する最も古い写本とされる『甲陽軍鑑』を7月24日から展示予定です。



采配柄の銘文

長野市立博物館
〒381-2212
長野市小島田町八幡原史跡公園内
026-284-9011